

# 290人が参加 皆さんの声をお聞きしました!! 市内13カ所で市政懇談会を開催

6月2日から7月24日にかけて、市内13カ所の会場で市政懇談会を開催しました。市政懇談会に参加されたのは、全会場で290名。昨年の参加者307名を下回ったものの、各会場の平均人数はほぼ昨年並みの22.8人（昨年は23.6人）の参加者となりました。また、参加された皆さんからは153件の意見・要望などがありました。

今回、市からは、市の最重要課題であった工業団地の借入金約113億円の返済のため、県から30億円を0.55パーセントという低利の融資を受けたこと。そして、その融資を受けたことにより金融機関と協議し、平成32年度までに工業団地の借入金を返済する見通しが立ったことについての内容説明を行いました。また、3つの基金（子ども基金、農業振興基金、商工振興基金）を活用する支援事業や、本宮小・岩根小の増改築事業、白沢総合支所建設事業、農産物の販路拡大事業などハード・ソフトの事務事業について説明を行いました。懇談会では、財政、農業、土木、福祉、教育問題など貴重なご意見・ご要望を沢山いただきました。これらは、今後の市政運営に活かすとともに、安全面などから至急対応を検討させていただくものもありました。今回は、紙面の都合上、各分野ごとの主な質問を掲載しました。



▲岩根農構センターの懇談会の様子

## 財政問題について

質問：工業団地の借金を本  
当に返せるのか。

回答：合併協議の中で問題となつたのは工業団地の借入金の返済。財政健全化計画は、工業団地の借入金をどのように返していくかというところで策定した。工業団地の借入金は変動金利であったため償還額が確定しなかつた。金融機関も情勢の変化により長期間の貸し付けが難しくなり、平成32年までに返済するよう要請があつた。

一方、工業団地開発は、県も関わりがあることから30億円を0.55%という低利で融資を受け支援していただくことができた。この30億円は銀行の返済のあと10年かけて返すこととなり、工業団地の借入金の返済の目途があつた。その前提となるのは財政健全化計画であり、金融機関にも理解いただいた。市としてはこれを守っていく。

質問：借入金の返済につい

て、12年間で約200億円を返済するということは、毎年20億円近く返済することになるが、その財源は。

回答：市の借金を工業団地の借金と、それ以外のものに大きく2つに分けて考えていただきたい。工業団地以外の借入金については、これまで同様、皆さんの税金等を財源にしながら予定どおり償還していく。

工業団地の借入金の残高は元金で約113億円。県から30億円借り入れし、残り83億円を平成32年度まで返済するという計画。83億円を13年で返済すると、1年あたり平均約6億5千万円となる。財源については、工業団地の売却代金、賃貸料。そして工業団地から見込まれる税収の中から償還をする。なお、皆さんの税金の一部からも償還に充てるということと償還計画を立てた。

質問：合併して交付税が何年かは同じ率でくるが、それがなくなった時に何

億円ぐらい足りなくなるか心配だ。

回答：交付税は合併から10年間は、合併しなかつたものとして計算するので、ある程度高い水準でくる。その後5年間かけて圧縮される。その金額は約4億円。ポイントでは市の借金で一般会計の借金がその時には下がる。これは旧本宮町時代に大きな事業をしなかつたことによる。現在、一般会計で年間に15億円ほど返済しているが、その時点では10億円を割る計算。10年先までの税収は読めない部分があるが、財政調整基金を確保し対応する。本宮の場合は70億円の財政規模であり、国の指針では5億円から6億円あれば不測の事態に対応できることとなっている。

質問：総合支所を建設する予算があるなら借金返済に充てるのが普通ではないか。

回答：合併協議の中で新市の姿について協議を進めてきた。借金については返済する見通しがついた。



▲財政問題などを説明する佐藤市長

そういう中で旧白沢村からの念願であつた新しい庁舎をつくりたいという意向をくみ入れて取り組んできた。財政健全化の中でも庁舎建設をするこ

とで取り上げたものなのでご理解を。

質問：財政健全化計画では、市税について若干緩やかに増加すると見込んで

## 道路・河川の整備

質問：駅前から公民館まで

の道路にポールが立つて、大型車などすれ違つのが大変。何のためにやつたのか。

回答：歩道を確保したということ。車の運転手からすると狭いと感じるが歩行者と自転車の方のためには今回は整備した。今までは自転車は歩道をはみだして走つたり危険だつた。同じ幅の中でどちらを優先させるかという



▲改良された駅前から公民館へ向かう通り

質問：白沢地区の県道二本

質問：合併協議の中で問題となつたのは工業団地の借入金の返済。財政健全化計画は、工業団地の借入金をどのように返していくかというところで策定した。工業団地の借入金は変動金利であったため償還額が確定しなかつた。金融機関も情勢の変化により長期間の貸し付けが難しくなり、平成32年までに返済するよう要請があつた。

一方、工業団地開発は、県も関わりがあることから30億円を0.55%という低利で融資を受け支援していただくことができた。この30億円は銀行の返済のあと10年かけて返すこととなり、工業団地の借入金の返済の目途があつた。その前提となるのは財政健全化計画であり、金融機関にも理解いただいた。市としてはこれを守っていく。

質問：借入金の返済につい

て、12年間で約200億円を返済するということは、毎年20億円近く返済することになるが、その財源は。

回答：市の借金を工業団地の借金と、それ以外のものに大きく2つに分けて考えていただきたい。工業団地以外の借入金については、これまで同様、皆さんの税金等を財源にしながら予定どおり償還していく。

工業団地の借入金の残高は元金で約113億円。県から30億円借り入れし、残り83億円を平成32年度まで返済するという計画。83億円を13年で返済すると、1年あたり平均約6億5千万円となる。財源については、工業団地の売却代金、賃貸料。そして工業団地から見込まれる税収の中から償還をする。なお、皆さんの税金の一部からも償還に充てるということと償還計画を立てた。

質問：合併して交付税が何年かは同じ率でくるが、それがなくなった時に何

億円ぐらい足りなくなるか心配だ。

回答：交付税は合併から10年間は、合併しなかつたものとして計算するので、ある程度高い水準でくる。その後5年間かけて圧縮される。その金額は約4億円。ポイントでは市の借金で一般会計の借金がその時には下がる。これは旧本宮町時代に大きな事業をしなかつたことによる。現在、一般会計で年間に15億円ほど返済しているが、その時点では10億円を割る計算。10年先までの税収は読めない部分があるが、財政調整基金を確保し対応する。本宮の場合は70億円の財政規模であり、国の指針では5億円から6億円あれば不測の事態に対応できることとなっている。

質問：総合支所を建設する予算があるなら借金返済に充てるのが普通ではないか。

回答：合併協議の中で新市の姿について協議を進めてきた。借金については返済する見通しがついた。

松・三春線、下見沢から山ノ内間が狭い。測量はされたようだが、今後の状況は。

回答：県道二本松・三春線は700メートルの未改良区間がある。この区間は、平成18年度に測量し幅杭を打設した。合併後も県に改良を要望しているが、いつ整備するのか正式な回答はない。今後とも早急に整備するよう要望していく。

質問：ドリームラインの整備

については、通学路になつているので早期に整備を。

回答：ドリームラインの整備については、用地取得、家屋の移転などもあり、目に見えた整備が出来ない状況にあつた。平成20年から21年度で、ある程度用地が確保されるため、今後は早期整備に向けて努力したい。

質問：本宮駅前東口広場の整備事業とはどのような内容か。

回答：平成19年度から国土交通省のまちづくり交付

金事業で取り組んでいる。駅前広場を整備し朝夕のラッシュを解消したい。23年度に完成する予定。

質問：大縄堀街道踏切の所

は、どこまで広がるのか。回答：佐藤パン屋さんから丸大ハムの工場までの計画。佐藤パン屋さん側に道路を広げ、狭く危険な踏切切りは歩行者の通路を付ける。



▲整備予定の大縄堀街道踏切

質問：総合支所ができた場合にアクセス道路を考えると、はならないのではないか。

回答：総合支所は来年秋に完成する。その場所には公共施設が集まることになるので、アクセスにつ

質問：農業従事者は高齢であるが、市道の脇を耕作している場合は年に3回ぐらい土手の草刈りをしてほしい。高齢者がやらなくなつたらどうするか。回答：市道は800キロを越える延長がある。市で管理するのは現実的に難しい。地元の方をお願いできればと考えている。

質問：高木地区の県道二本松・金屋線の拡幅の計画は。

回答：平成20年度で用地取得完了予定。平成21年度で工事の予定なのでもう少し待つていただきたい。